追　悼

宮地政司先生を偲んで

大正14年4月，測地学委員会は，我が国の経度を確定するとともに，大陸移動等経度の永年変化を研究するため，緯度観測所のような独立の官制の経度観測所を設立すべきであるとして，内閣総理大臣および文部大臣に建議を行なった．これは結局実現されなかったが，実現していれば今日の測地学研究組織はかなり変っていたかも知れない．しかしながら昭和2年，測地学委員会官制が改正され，経度観測のためと明記して技師1人，技手3人を置くとして，大正13年に発足した三鷹国際報時所が強化された．その初めての技師に天文学科卒後2年，天文台技手の宮地先生が任命された．

宮地先生の消息について，私が初めて耳にしたのは，技術将校として陸地測量部に配属された昭和18年であった．南方戦線で兵科将校として転戦されている宮地少尉を陸地測量部として何とか召還しようとの運動が進められていた．40歳近くになられ，国際報時所で優れた業績を挙げられていた先生が兵科将校として召集されたことにいささか疑問に感じたが，先生が大学卒業後1年志願兵として飛行連隊に入隊され，航空兵少尉として任官されていたのが大きな理由のようであった．第2次大戦では航空将校が稀少価値があったことが先生まで召集した事情のようである．陸地測量部の運動は東条総理まで届いたとのことであるが，内地帰還はならず，当時占領中のジャバ・レンバン天文台長に任命され，潜水艦で任地に赴かれたとのことである．先生の履歴書を拝見すると陸軍中尉で天文台長の任にあったようである．21年に復員された．ある人から聞いた話であるが，当時はオランダの植民地であったため，戦後レンバン天文台長に任命されたオランダ人天文学者は天文台の施設，観測成果および文書が見事に整備されているのに驚き，かつ敗戦国日本の宮地博士の人柄に感動したという．

戦後，陸地測量部は地理調査所として内務省に移管されたが，その事業の性格上，米軍地図局との接触が多かった．そのころ米軍の野外精密天文観測のテキストに報時信号伝播に関する「宮地の式」が引用されているのを奥田豊三先生が発見された．応召前の国際報時所時代の先生の業績である．奥田先生は早速，萩原雄祐先生に注進におよび，昭和23年朝日文化賞受賞の運びとなったようである．戦後打ちひしがれていた折だけに，我々には朗報であった．

昭和30年前後から，米軍地図局委託による「星の掩蔽による測地的結合」研究の委員会や，測地学審議会などで，先生にかなり頻繁にお会いできることにあって，親しくして頂いたことは私の人生において誠に幸いなことであった．先生は広汎な話題について話上手であったと共に，聞き上手でもあった．こちらの勝手な意見に穏やかに相槌を打って頂いたことが想い出される．

明治の学問揺籃期に，最初に国際的学術活動を行なった測地学委員会の歴史とその後の推移を，宮地先生など老先生の存命中にまとめようとの永田前測地審議会々長の発案が具体化したのは今年始めである．御健康が今年になって勝れないとのことで，浅田測地審議会々長と2人で会の運営などについて御意見などを聞くために先生のお宅へ伺ったのは3月ごろであったと思う．しかし仲々お元気そうで，医者に外出はできるだけ避けるようにといわれているだけだとのことで一応安堵した．5月に私は宮地会長の後を継いで日本測量協会々長に任命され，先生は名誉会長に推戴された．それらの行事には，元気で出席された．7月始め，前記の「測地学研究の変遷と動向」についての第1回会議で，先生が6月末入院されて出席されないことを知らされた．数日後，御見舞に伺ったが，意識不明とのことで面会することができなかった．殆んどそのままの状態で約100日の入院後他界された．大往生といえよう．御冥福を心からお祈りする次第である．

坪川家恒

宮地政司先生の思い出

昨年4月半の朝10時頃，仙川にある宮地先生のお宅を私はお訪ねしていた．数日前先生から，前年11月ニューデリーで開かれた国際天文学連合（IAU）総会の話を聞きたいから来てくれるようにとのお電話を頂戴していたからである．この日奥様は生憎お留守であったが先生がお一人御在宅で至極お元気であった．国内の委員会などですでに報告したIAU出席報告のコピーなどお渡しして，「時」や「地球回転」委員会の関連分野の最近の情勢などを御報告した．先生は熱心に聞いて下さった．雑談にも花が咲いて，岩波の小雑誌「図書」の中の准陰生という匿名の「固有の領土とは？」という一文を見せて下さった．「これが中野好夫のペンネームだということを最近になって初めて知ったよ，彼とは同級の仲でね．面白いから読んでみなさい」といってその小雑誌を貸して下さったりした．やがて帰意を告げた時は12時をすでにまわっていた．帰る前に一緒に食事をということで，近くの朝鮮焼肉のレストランへ案内して頂いた．ここには時々お見えになるとみえて，てきぱきと註文されおいしい焼肉料理を御馳走して下さった．この時の先生は，比較的小食の私などからみると驚くほどの健啖ぶりであった．しかしこれが先生にお会いした最後と

箱根芦ノ湖にて（昭和15年頃）後列右から3人目

なってしましたのである．他にもお借りした資料もあって，お返しにゆかなくてはと思い乍ら，つい伸び伸びになってしまっていた矢先，先生の御入院を聞いた．7月7日のことであった．御恢復を願う私共の祈りも空しく10月11日には先生の訃報を耳にした．4月にお会いした時のあのお元気な様子からはとても信じられない悲しい暗転であった．

戦後間もない昭和 23 年頃，日本学術会議の中に無線報時委員会が結成され毎月定例会議が開かれていた．戦後の報時事業の復興と改善を目指したもので，東京天文台を中心に，関連分野の学識経験者や当時の電波局の幹部の方々が多数参加していた．委員長は萩原雄祐先生，副委員長は古賀逸策先生であった．宮地先生はこの委員会の幹事で実質上の推進役を担当されていた．この頃私は東工大にいて古賀先生のお伴で時折出席した．これが宮地先生を存じ上げた最初であった．やがて縁あって東京天文台へ入台，宮地先生の率いる天文時部の一員に加えて頂いた，昭和25年頃のことである．

当時の天文台は木造バラックの細長い棟が3列ほど並んでいて，その中の一つが報時研究室，後にこれを延長して時刻観測研究室が増築された．天文時部にはこの他敷地の北西部にはるか離れて「国際報時所」の門柱のある建物，通称「経度」があって内外の無線報時を受信していた．宮地先生は別棟の御自身の研究室のほか，これらの観測，報時，国際比較の3研究室をかけめぐって，研究の指導に当られ忙しい充実した毎日を過しておられた．萩原台長のお骨折りで報時事業費が通り，この一環として子午儀に代る写真天頂筒，リーフラー時計に代る水晶時計の導入計画が着々と進んでいた．このため部内の研究会，打合わせ会は頻繁で，さらに辻光之助先生の率いる子午線部と共催の「子午線談話会」も毎月開催され，宮地先生には八面六臂の御活躍であった．

無線報時委員会には宮地先生を先頭に，虎尾（正久）さんと3人いつも揃って出席した．時にはこの閉会後，宮地先生から「今日は映画をみてゆかないか」と誘われることもあった．たしか上野の赤札堂の前あたりの映画館であったと思う．この時一所に見た「にがい米」がまだ記憶に残っている．忙中閑ありで，釣好きの仲間が集って，宮地先生の官舎を会場に，三鷹釣友会の講師を招いて釣の手ほどきを受けたこともあった．まだ車の往来の少い時代で，退庁時間を過ぎると用意した自転車で三々五々多摩川へはや釣に出かけたことも屢々であった．またある日曜日には自転車で和田峠をめぐるグループ旅行が企画された．結果は相当な強行軍となってしまって，帰路には宮地先生がダウンされるという大変申訳ない結末のあったことも思い出される．昭和 32 年先生が台長に就任されてからは御多忙のため少し遠のいたが，宮地先生は仕事の面以外でもよくみんなと付き合って下さった．宮地先生との思い出は尽きない．

無線報時委員会も時小委員会と名を変えたが，「時」の問題を中心に現在もなお続いている．当時からみると，「秒」単位は平均太陽日から暦表時へ，そしてさらにセシウム原子時へと変った．国際時刻比較の精度も当時の0.1ミリ秒から最近では10ナノ秒へ飛躍している．宮地先生はこの変遷の時機を私共を率いて歩まれ大きな足跡を残された．最後にお会いした時の先生のあの元気さか

ら思えば，もっともっと長生きされて貴重な御意見を頂きたかったという思いが切である．しかしいまは，長年にわたり先生から受けた御指導に対する心からの感謝を御霊に捧げ，ひたすら御冥福をお祈り申し上げます．

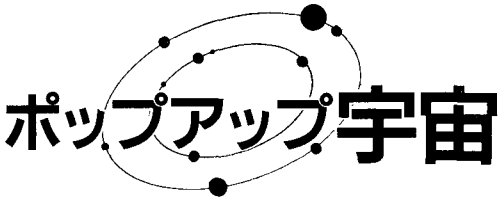
飯島重孝

宮地政司先生　略歴

明治35年10月7日	出生
大正14年3月	東京帝国大学理学部天文学科卒業
大正14年4月	東京大学助手
昭和2年7月	文部省測地学委員会三鷹国際報時所技師
昭和4年4月	東京大学東京天文台技師
昭和11年4月	陸軍陸地測量部嘱託兼務
昭和17年3月	理学博士の学位を受ける
昭和23年1月	朝日文化賞　受賞
昭和24年3月	東京大学教授
昭和28年2月	第3回国際極年研究連絡委員会幹事
昭和28年5月	(社)日本天文学会理事長
昭和30年12月	南極地域観測統合推進本部委員
昭和32年4月	東京大学東京天文台長
昭和35年1月	日本学術会議会員
昭和35年5月	宇宙開発審議会委員
昭和36年6月	測地学審議会々長
昭和38年4月	東京大学停年退職
昭和41年11月	(社)日本測量協会々長
昭和43年11月	紫授褒章　授与
昭和44年1月	宇宙開発委員会参与
昭和46年6月	宇宙開発事業団参与
昭和46年7月	気象審議会委員
昭和47年4月	(財)日本地図センター理事長
昭和48年11月	勲二等瑞宝章　授与
昭和57年5月	東京大学名誉教授
昭和61年10月11日	逝去（84歳）

◇　◇　◇

丸善の出版書



～ビッグバンからブラックホールまで～

村山定男 監訳　西城恵一 訳　定価3,800円

宇宙の創生，星の誕生，ブラックホールの話など，オールカラー，見開きの立体模型で時間と空間を超えた宇宙のドラマを再現する。

丸善エンサイクロペディア シリーズ

MARUZEN

宇宙・天文大辞典

編集委員長 小田 稔　B5/700頁　定価15,000円

現代の宇宙・天文学最先端の情報3,000項目を精選収録。各々のポイントを分り易く解説し，体系的な理解が得られるよう構成。

理科年表読本

気象歳時記

高橋浩一郎 著　B6/定価1,600円

日本の気候は変化に富み，暮らしの中にも諺や俚言として様々な形で残されています。これらを四季折々のテーマに沿って綴る気象学エッセイです。

●一頁一頁から新しい発見を！

理科年表 62年版

東京天文台 編

A6/定価980円　机上版 A5/定価1,900円

丸善〔出版事業部〕

〒103 東京都中央区日本橋3-9-2 第二丸善ビル

営業(03)272-0391　編集(03)272-0393